

南海トラフ沿いでの地震発生後の対応の流れ

南海トラフ地震が発生したら... **地震発生** 揺れを感じたらまず身を守る行動を

家庭で

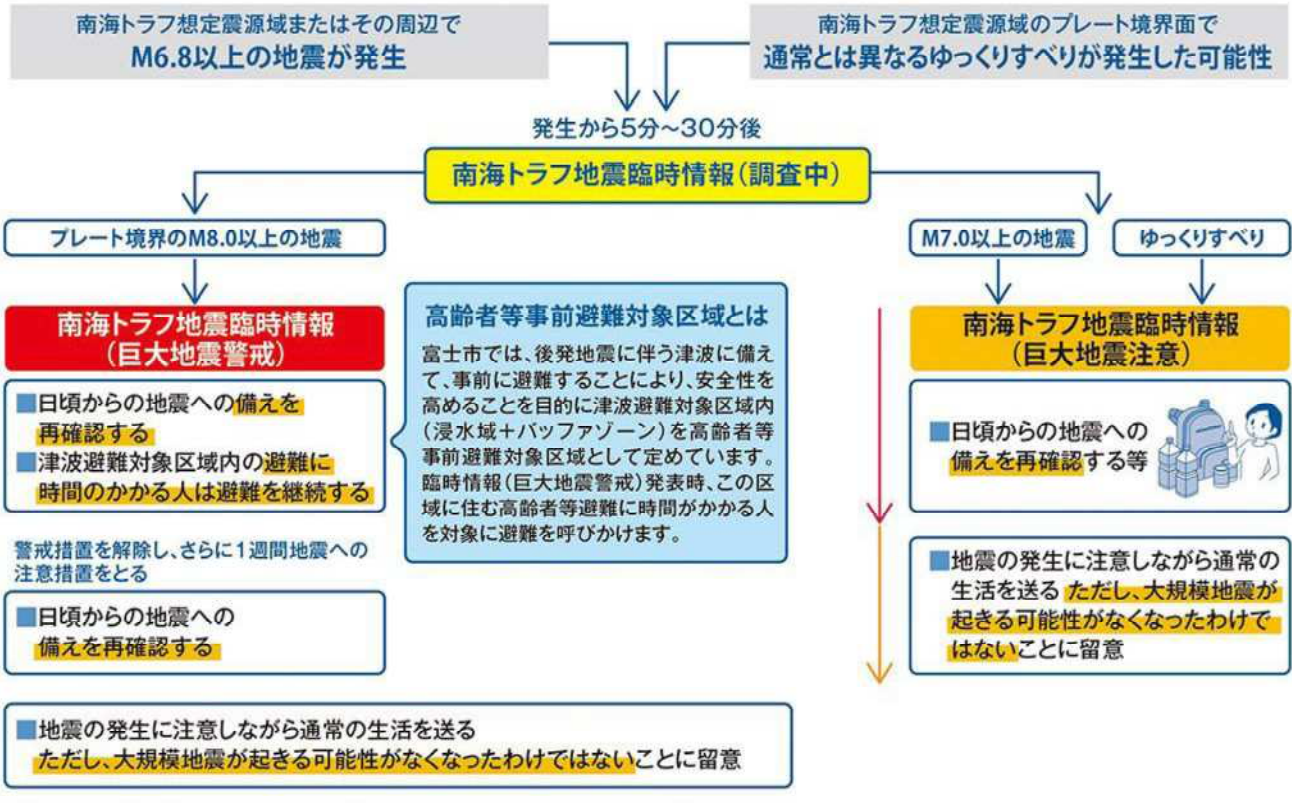
頭を保護して机の下など頑丈な場所に隠れる

屋外で

ブロック塀や電柱、自動販売機など、倒れる危険のある場所から離れる

沿岸部で

津波避難対象区域内の住民は全員避難する



I 富士市の自然災害

※ゆっくりすべりが観測された場合はそれが収まったと評価されるまで

富士川河口断層帯



富士川河口断層帯は、富士川の河口周辺からほぼ南北に延びる活断層帯です。

調査により推定される位置は図のとおりで、マグニチュード8.0程度の地震を引き起こす可能性があると考えられていますが、活動間隔や地下構造についてはほとんど分かっていません。

平均活動間隔等は下表に示す、ケースa、ケースbの2つの見解があり、その2つを下限、上限とする範囲内の値となる可能性があると考えられています。

	ケースa	ケースb
過去の平均活動間隔	約150年~300年	約1,300年~1,600年
過去の地盤隆起量 (西側が東側に対して相対的に隆起する量)	1~2m程	10m程度
今後30年以内の地震の発生確率	10~18%	2~11%

富士川河口断層帯の近くにお住まいの方はもちろんですが、それ以外にも、発見されていない断層は数多く存在すると言われていたため、強い揺れに対する十分な備えは、全ての市民の皆さん共通の課題です。